

豪雨に台風、そして連日の猛暑日と、今年の夏は厳しい気象状況が続きます。安全と健康にはくれぐれもお気をつけください。それでは、今回もたくさんの情報をお届けします！

現在会員登録数 594 人さま。次号は9月21日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO!この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 12

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■ 【1】お知らせ ■

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る— その1

『いっしょだよ』募金のお願い!

子どもたちに本を!被災地の図書館や学校、幼稚園、保育所、地域文庫などに子どもの本を購入して送ります。ご協力をお願いします。

◎ 募金は最寄りの郵便局から郵便振替による送金をお願いします。

口座番号: 00970 - 9 - 12891 加入者名: 毎日新聞大阪社会事業団

・通信欄に「子どもの本」と明記ください。

・お名前を毎日新聞に掲載させていただきます(匿名にもできます)

・税制上の優遇措置が受けられます。

* 本そのものの寄付は、受け付けておりません。ご了解ください。

● 東日本大震災で被災した子どもたちに本を贈る— その2

「本の寄贈を希望される施設」の募集!

・対象: 学校、幼稚園、保育所、児童館、地域文庫など

・寄贈先予定数: 200カ所(予定)

・図書の内容: 施設の年齢対象、人数等にあわせ、適当と思われる本を購入し保護カバーをつけて送付します。

・受付期間: 平成23年11月末日まで(予定)

・応募: 当財団ホームページから申込みできます。

上記2件とも 詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/>

お申込み/お問合せ: 当財団『いっしょだよ』キャンペーン事務局

主催: 財団法人 大阪国際児童文学館 / 大阪府書店商業組合

毎日新聞社 / 毎日新聞東京・大阪・西部社会事業団

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。お申込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

『スカーレット わるいのはいつもわたし?』 キャシー・キャンディー/作
大高郁子/絵 もりうちすみこ/訳 偕成社 2011年5月

あらすじ:離婚した母親とロンドンで二人暮らしのスカーレットは、両親に対する怒りのあまり、反抗を重ね、いくつもの学校を退校になっていた。最後の手段として母親は、父親と新しい妻クレアとクレアの娘ホリーが住むアイルランドにスカーレットを送る。スカーレットは、そこでも騒動を続けるが、歓迎してくれる家族に囲まれ、馬に乗った少年と出会う中で、自分を客観的に見られるようになっていく。

Y: 12歳のスカーレットが髪を赤く染め、舌にピアスをして、自分でも止めようのないぐらい怒っている様子に共感しました。それでも、態度を緩和させようと思ってしたことがすべてまずい方向へ進み、ますます焦りと怒りが募る様子にリアリティを感じました。

O: スカーレットがアイルランドという美しい自然の魔法の地に行き、家を出している少年と出会う。妊娠中のクレアがはしごから落ち、嵐の中、スカーレットの機転で病院へ駆け込み、出産という命に触れる経験をする。「反抗」ものによくあるパターン…と思いながらも、駄々っ子ぶりもここまでくれば立派で、暗いはずの話面白くしています。

Y: 父親の元に来て、自分の怒りは母親に対してではなく、父親を喪失したことによると気がつくところは説得力がありました。また、スカーレットにあこがれる義妹ホリーの存在が、スカーレットが自分らしさを取り戻す要因になっていると感じました。

O: 『家出-12歳の夏』(M. D. バウアー/作 平賀悦子/訳 こさかしげる/絵 文研出版 1981年1月)は、義母に対する父親の態度に怒り、家を出して、一人暮らしのおばあさんに会って犬の出産に立ち会うアメリカの女の子の話ですが、国や時代の違いを超えた普遍的な問題ですね。

Y: 私も『あたしが部屋から出ないわけ』(アメリー・クーテュール/作 末松氷海子/訳 小泉るみ子/絵 文研出版 2008年12月)や『わたしにはパパだっているもんね』(クリスティーネ・ネストリンガー/作 松沢あさか/訳 さ・え・ら書房 1995年4月)を思い出しました。

○：いつの時代も親の離婚や再婚は、子どもに大きい衝撃を与えるものです。この作品は、それでも家族として親と付き合いをえないうちの子どもの、一つのケース・スタディなのかもしれません。

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 12

「その5 絵本の選び方(7) 絵本を評価する：絵2」

絵本の絵は、1冊の絵本としてのページ展開を評価することに加えて、各見開きの絵の描かれ方にも注目する必要があります。

まずは、絵の手法です。この物語を伝えるのに最も適した手法が使われているか。静かなお話にもかかわらず、タッチがうるさすぎて静かさが感じられない、パワフルなお話なのに絵がおとなしすぎるなどのミスマッチになっていないかということです。

同じように、色づかいと物語との調和も大切な観点です。明るい場面は明るい色を、暗い場面は暗い色が使われることで、ページをめくったときの印象が異なり、場面転換や登場人物の心理などを読み取ることができます。また、1場面の中に特に目立つ色があつたとしたら、なぜ、その色がそこに使われているのかを考えることで、色による物語の演出を読み取ることができます。

登場人物の描かれ方も重要な要素です。それによって、読者が感情移入できるかどうかが決まります。人間なら、感情を持った「生きた人間」として描かれているか、動物なら、「ぬいぐるみ」ではなく自然界に生きる動物として描かれているかということが重要です。

各ページの構図からも物語を読み取ることができます。登場人物が小さく描かれていれば、読者との距離が作られ、その人物の悲しさや孤独を読み取ることが可能ですし、顔のアップであれば、読者はその人物の感情に移入し、読み取ることが示唆されます。

また、各場面には基本的に文章がありますが、絵本の場合、文字部分も含めてデザインされていることが重要です。絵を邪魔するように文字が印刷されていたり、絵の色が濃過ぎて文字が読みにくかったりするのは評価できません。『ちいさいおうち』（バージニア・リー・バートン/作 石井桃子/訳 岩波書店）などのように、文字と絵が一つのデザインになっている絵本を見れば、その違いは一目瞭然です。

さらに、集団の前で絵本を読むときには、見ている子どもたちに絵が見えるかという点も重要です。これは絵本の絵の評価とは異なる評価基準ですが、見えない絵本を選ぶわけにはいきません。ここに集団の前で絵本を読むことの限界があります。

*次号では「その5 絵本の選び方(8) 絵本を評価する：ことば」の予定です。質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思っております。(Y)

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

資料所在データベース 12 回目。今回ご紹介するのは、次のサイトです。

函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース

(同データベース作成委員会)

http://www.h-bungaku.or.jp/hakodate_jido_zasshi/index.html

児童書は、かつて図書館でも消耗品として扱われ、体系的に収集が行われてきませんでした。ゆえに、現存せず実見困難なものが多くありますが、一方さまざまな理由から当時の貴重な資料が思いもよらない地方に残され、驚かされることがあります。今回ご紹介するサイトは、函館市立図書館や道立図書館など、北海道の関連機関が所蔵する児童雑誌を収録したものです。

函館市立図書館は、昭和3年に北海道で最初に設立された図書館で、当時の館長の意向により、明治以降の児童書の収集・保存が行われてきたそうです。なかでも、同館には「罹災児童同情図書」と名付けられた資料（昭和9年の函館大火ののち全国の図書館から集まった12万冊に及ぶ資料）があり、これらの残部が現在も残されています。

その資料のなかには、外地（台湾や旧満州）などで発行され、現在国内では所蔵機関がないものや、地元で発行された稀少な児童雑誌なども多く含まれ、大変貴重なコレクションとなっています(*1)。収録数は、雑誌111タイトル（1,469冊）、図書60冊、絵雑誌64冊ですが、約12万8千件の収録作品データが入力されており、雑誌名はもちろん、巻号、収録作品名、著者名、出版社、発行者・監修者・編集者などで検索できます。児童雑誌の欠号を埋めたいときには、このデータベースにアクセスしてみてもいいでしょう。(J)

(*1)資料の概要や背景、意義などは『「函館の貴重児童資料」論集』（「函館貴重児童資料の公開と記録集作成」実行委員会発行、2010.12）に詳しく論じられています。

※次号は、資料所在データベース篇〈その13〉の予定です。

《4》 行って来ました！

伊丹市立美術館で開催されている「生誕100年記念 フェリックス・ホフマン展 うつくしい絵本の贈りもの」に行ってきました。

ホフマンの絵本は、自分の子どもたちや孫たちへの贈り物として描かれた絵本が後に出版されたものだそうです。病気だった三女に『おおかみと七ひきのこやぎ』、次女に『ねむりひめ』、長女の誕生日に『ラプンツェル』、末っ子の長男に『七わのからす』。表紙から見返しまで丁寧に描かれた手描きの絵本は、大切に保存され、父の力強さや優しさが伝わってきます。

出版された絵本の原画だけでなく、原案、試作もたくさん展示されていて、見比べて楽しめます。たとえば、狼がやってきて子ヤギが隠れる場面は、躍

動感はそのままに、部屋の家具が違っていたりします。

ホフマンは絵本だけでなく、ステンドグラスや壁画なども手がけ、写真や映像で紹介されていました。小学校の壁に描かれた人物は、今にも動き出してくそうです。色を重ねた層を削って描くスクラッチングという方法で描かれたそうで、校舎の扉や窓を活かした構図とともに、独特の味わいで迫ってきます。しばし、ホフマンの故郷、スイスのアーラウという小さな街を思い浮かべ旅していました。(K)

【3】全国のイベント紹介

● 田島征彦絵本原画展

会 場：大阪府立大型児童館ビッグバン

期 間：9月17日(土)から11月13日(日)まで

内 容：堺市出身の絵本作家、田島征彦氏の代表作品の一つ「じごくのそうべえ」などの絵本原画。旧・大阪府立国際児童文学館に所蔵されていた。

イベント：

・田島征彦 おはなし会 9月19日(月・祝)午後1時30分～3時

定員200名 事前申込制

・おはなしポップ おはなし会 9月18日(日)、10月1日(土)、

10月23日(日)、11月12日(土) いずれも午後2時から

・ワークショップ 『じごくのそうべえ』の世界を楽しもう

9月23日(金・祝)午後2時～3時 定員30名

講師：土居安子 当財団主任専門員

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「YO!この本読んだ?」で紹介しました『スカーレットわるいのはいつもわたし?』を1名の方にプレゼントします。

ご希望の方は、メールで 件名「IICLO MAGAZINE NO.12プレゼント希望」とし、

(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス (5)このメル

マガのご感想 をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は9月9日(金)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

『節電』の夏、「東京は、暗くて暑い」出張帰りの人の感想です。ささやかにできること、家人となるべく一つ部屋にいるのが良いが、ゴメン、そこはやはり自室でと、エアコン温度は2度上げる…。(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまで
お願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：財団法人 大阪国際児童文学館 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
